

【舞台設定】

- ・夢を仮想現実化できる技術が発達した世界。
- ・夢デバイスを装着して眠りにつくと、仮想現実化された夢の世界にログイン可能。
- ・夢の世界の風景などは固定。簡単な物質くらいだったら創出できる。
 - └・世界が固定なのは、その人の性格のようなものを表している。
- ・物質くらいは創出できるのは、感情の起伏などで表面的な部分が変わることを示唆？
- ・夢の世界の分類として①オンプレミスと②クラウドを分けて舞台設定。

①オンプレミス

- ・個人の夢の世界。
- ・完全にプライベート空間として切り出される。物質を創出することにより、
例えば家を作ってみたり、畑を耕してみたり・・・？色んな遊びを楽しめる。
- ・デバイスのプラグインにより、個人の夢同士を繋げたり、
オンプレ上にクラウドへの入り口を作ることができる。

②クラウド

- ・広大な夢の世界。
- ・個人の夢から接続することで、クラウドの世界に行くことができる。
- ・様々なコミュニティや、それに紐づく世界構成がなされており、
仮想的な会社や学校、アミューズメントパーク的なものも存在する。

【物語】

第一章

- ・ある男の子Aと女の子Bが主要登場人物（小学校高学年くらい？）
- ・互いは幼なじみで、夢の世界で個人同士の夢を繋いで遊ぶほど仲良し

- ・あるいは同じ仲良しグループでこっそり両想いとか(小学生ならこっちのがリアル?)
- ・女の子Bはクラウドの世界で、クラウド初の「夢アイドル※」として有名人?
- ※自身のパフォーマンスで他者を喜ばせられる何かなら、アイドルじゃなくても可
- ・物語はクラウド世界における女の子Bの失踪から始まる。

第二章

- ・男の子Aがクラウド内で女の子Bを探し始める。(重要参考人として捜査協力?)
- ・暗号化された何か物質が見つかり、それが捜査の手がかり。(詳細は一旦保留)
- ・その暗号は男の子Aしか解くことができない。(過去の何かの出来事への紐づけ)
- ・暗号解いた物質を辿っていくと、クラウドの世界の時空の狭間のような所に辿り着く。
- ・そこに飛び込む男の子A。

第三章

- ・飛び込んだ先はカオスな世界。囚われている女の子Bを発見する。
- ・そこに現れる黒い影のような人物。(シルエットから主人公らと同じ年位の女の子?)
- ・実はクラウドの世界は、その女の子による夢であることが発覚。(以降、女の子C)

女の子Cの過去

- ・その女の子は生まれた時からの先天性の病気により、ずっと眠ったままの状態。
- ・失意の女の子Cの両親のもとに、夢デバイスの開発者が歩み寄り、
女の子Cが夢デバイスの実験体となることを承諾。
 - └ 夢の中だけでも楽しくて欲しい両親の希望、など
- ・開発過程で女の子Cは類稀なる能力を発揮し、広大な夢の世界を構築(後のクラウド)
- ・本来いるべき女の子Cの”実体”がない。クラウドの世界そのものが実体のような感じ。

- ・初め、クラウドの世界にオンプレから他者が接続してきた際、

自分のクラウド世界で他者が喜んでくれることに充実感を感じていた。

- ・そんな時現れた「夢アイドル」の存在により、自分ではない”他者”が人を喜ばせていることに嫉妬を感じ始める。

⇒自我が生まれだす。自我＝黒い影だが、ハッキリしてないのでおぼろげ。

- ・ある日、感情が爆発し、夢アイドルである女の子Bを攫う。

第四章

- ・一連の心情を読み解く男の子A(あるいは女の子B)(詳細は一旦保留)

- ・女の子Cには女の子Cにしかできないことがあることを解く。

(広大な夢の世界を築くことができる心の豊かさで人を楽しませる)

- ・次第に心を開いてくる女の子C。

- ・最後、女の子Bから一緒にアイドルをやらないかとの誘いで、

おぼろげだった姿もハッキリしてくる。(ここが弱い…?)

- ・無事、実体を持って自分の夢の世界に姿を現すことができ、

女の子Bと2人組のデュエットとして、活動し始めるところで終わり。

【まだ詰める必要があるとこ】

- ・男の子Aの存在意義

- ・詳細を保留にしたところ